

令和3年度 第7回みやぎ小・中学生いじめ動画コンクール入賞作品一覧



【最優秀賞】

石巻市立山下中学校
山下中学校 シリウス 生徒健全育
成ボランティア

「私には前進する理由がある」

学校で生活していれば、うまくいく事や失敗する事があります。失敗することで辛いのは、その失敗を誰にもサポートしてもらえなかったり、見て見ぬフリをされたりすることではないか、と考えました。

失敗しても友達が応援してくれたり、サポートしてくれたりすることで、その失敗を乗り越えることができるのだと信じて動画を制作しました。

皆がいてくれること、それこそ自分が前進できる理由であることを表現しました。

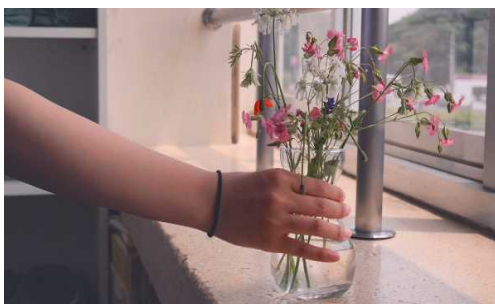


【優秀賞】

名取市立愛島小学校
愛島小学校生活委員会

「君は一人じゃないよ」

コロナ禍での学校生活が始まって、1年がたちました。学校生活の中で、咳やくしゃみをする、「コロナなんじゃないの」と疑われているような気がすることがあります。感染防止のために、一人一人が気を付けることは大切ですが、周りの人が「大丈夫」と思いやりの気持ちをもって声をかけることも、必要だと思います。そんな、少しつらい思いをしている人たちに「一人じゃないよ」というメッセージを届けたいと思い、CMを作りました。



【優秀賞】

松島町立松島中学校
松島中学校生徒会

「その手が運ぶもの」

机一面に敷き詰められた悪口の数々。それらは言葉たちが自ら意図をもってやってきたわけではありません。私たち一人一人が自分の手で運んできたものなのです。私たちには力があります。ちょっとした誤りで人を深く傷つけてしまう力が。そして人を救う力が。ちょっとした気持ち、行動が集まれば、花瓶に花が集まるように優しい手が届けば、きっと明日は明るくなります。あなたはその手で何を運びますか？



【優良賞】

丸森町立耕野小学校
耕野小学校あぶくま児童会

「のばそう 正しい 心の芽」

私たちの学校は、全校児童5名の学校で、男女も学年も関係なく活動しています。もちろんいじめはありません。このCMをつくるとき「私たちの学校にはなぜいじめがないのか」「どうしたらいじめがなくなるのか」をみんなで話し合いました。その時に、「始めはちょっとした意地悪なつもりでも、それがそのまま大きくなっていくと、いじめにつながるのではないか」という意見が出ました。そして、どんなことを呼びかけたいかをみんなで考えました。それをまとめた言葉が「つみとろういじ芽 のばそう正しい心の芽」です。CMの中で、みんなでこの言葉を選びかけました。見てくれた人に私たちの思いが伝わればうれしいです。



【優良賞】

栗原市立志波姫小学校
志波姫小学校児童会

「笑顔の種」

1人1人の言葉が笑顔の種になる。そして、あたたかい言葉は、たくさんの人を笑顔にさせるということが伝わるように友達と話し合い、自分たちで構成・編集・役などを決め、しあげました。この動画を見てくれたいろいろな地域のたくさんの人が楽しい学校生活をおくれるようになってくれるとうれしいです。



【優良賞】

山元町立山元中学校
山元中学校生徒会執行部

「私たちにできること」

クラスの中に一人ぼっちの人がいたら、それは他のたくさんの人の無意識の行動が誰かをひとりぼっちにしているのだと思います。その事に気づき、行動を変えることができれば、多くのいじめはなくなるはずで。まずはあいさつ等を通してコミュニケーションを図り、いじめのない学校を作っていきたいと思いました。



【佳作】

岩沼市立岩沼小学校
岩沼小学校生活安全委員会

「その一言で」

なに気ない一言でだれかの心に傷がつくので発する言葉に気を付けてほしい。「大丈夫?」「手伝うよ」などの言葉で友達を日常生活のいやな事から助けてほしい。暴言を発する事はいじめやいやな事につながるからやめてほしい。この作品を見る事で友達を助ける気持ちを高めてほしい。



【佳作】

松島町立松島第五小学校
松島第五小学校2年生（げんきもりもり）

「ふわふわことばでみんなえがお」

松島第五小学校では、「いじめ0」をつづけるために、毎年児童一人一人が自分のきもちをかいて、ろうかのかべにはっています。かくだけではなく一人一人がそのことをまもっています。ときどき、ちくちくことばをつかってしまってけんかしてしまうこともあります。でも、すぐにあやまってふわふわことばをつかってなかなかおりをします。だから、みんないつもふわふわことばをつかっています。松島第五小学校は、『ふわふわことばでみんなえがお！いじめ0（ゼロ）！』です。



【佳作】

南三陸町立伊里前小学校
伊里前小学校たつがね児童会

「みんなでつくろう 笑顔の輪」

伊里前小学校は、田束山と伊里前湾に囲まれた、自然豊かな学校です。

全校児童で考えたオリジナルキャラクター4体は伊小っ子の特別な仲間です。今回はそのうちの1体「たねちゃん」に出演してもらいました。

このCMは、伊小っ子の仲の良さや思いやりの心を表しています。「友達と支え合う」は、特別なことではなく、毎日の何気ない関わりからでもできることを表現しました。

このCMを通して、いじめのない学校がさらに広まってほしいと思います。



【佳作】

栗原市立志波姫中学校
志波姫中学校執行委員会（生徒会）

『現実に戻れない』

私たち栗原市立志波姫中学校の現状は、生徒同士仲良く大きなトラブルもなく学校生活を送っています。しかし友達をけなすような言葉をふざけの中で言うってしまう人がいます。この作品では、普段の生活の中で起こりうる事を再現したものです。軽い気持ちで言った言葉が相手にとって傷つく言葉として捉えられてしまうことがあります。作品の中では、時を戻してもう一度やり直すことが出来ていましたが、現実ではそうはいきません。自分の言動が相手を傷つけることがないか深く考えて友達との関わりを持ってほしいという想いを込めた作品です。



【佳作】

登米市立南方中学校
南方中学校生徒会

「みんな味方」

南方中学校生徒会では、「みんなみかたでいるため」の合言葉をもとに、いじめのない学校にする取組を行っています。

今回の作品は、おの合言葉にある“みなみかた”の部分を映像化して、2つのことを作品を通して訴えたいと思いました。

1つ目は、全員がいじめの傍観者にならず、いじめを見て見ぬふりをしないことの大切さを表現しました。

そして2つ目は、自分の周りには手を差し伸べてくれる仲間がいることに気づき、相手の立場を考え行動することで、ひとりで悩まずにいじめを解決できることを訴えました。

このCMを見てくれた人たちにとって、耳を傾け、手を差し伸べるきっかけになれば嬉しいです。



【佳作】

気仙沼市立気仙沼中学校
気仙沼中学校生徒会

「多様性」 ～らしさって何だろう？～

本校の作品はSDGsの目標5番にある「ジェンダー平等を実現しよう」をテーマとして掲げ、制作しました。

性別にとらわれることなく、1人1人が多様性を認め合い、互いに寄り添って生活することの大切さを伝えたいという思いを、最後のシーン『認めてくれますか、私の「らしさ」』に込めました。この作品を通して、男らしさや女らしさという固定観念から生まれる差別や偏見に向き合って、みんなで個性を認め合うことで、いじめをなくしていきたいというメッセージを込め、制作しました。